

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成25年5月30日 (2013.5.30)

【公表番号】特表2012-532115(P2012-532115A)

【公表日】平成24年12月13日 (2012.12.13)

【年通号数】公開・登録公報2012-053

【出願番号】特願2012-517923(P2012-517923)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/5383 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 9/08 (2006.01)

A 6 1 K 47/02 (2006.01)

A 6 1 P 27/16 (2006.01)

A 6 1 P 11/02 (2006.01)

C 0 7 D 498/04 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/5383

A 6 1 P 31/04

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 9/08

A 6 1 K 47/02

A 6 1 P 27/16

A 6 1 P 11/02

C 0 7 D 498/04 1 1 2 Q

【手続補正書】

【提出日】平成25年4月8日 (2013.4.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を含む医薬的に許容できる局所的組成物であって、該組成物は眼、耳または鼻の感染症の処置に好適である、組成物。

【請求項 2】

フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を 0 . 1 w / v % から 1 . 0 w / v % の濃度で含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を 0 . 1 w / v % から 0 . 5 w / v % の濃度で含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 4】

フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を 0 . 3 w / v % から 0 . 4 w / v % の濃度で含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 5】

前記組成物は 5 . 0 から 7 . 5 の pH を有する、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 6】

前記組成物は 5 . 0 から 6 . 0 の pH を有する、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 7】

抗炎症剤をさらに含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 8】

眼、耳または鼻の感染症を処置するための組成物であって、
フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を含む、組成物。

【請求項 9】

前記感染症は鼻の感染症である、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 10】

前記感染症は急性外耳炎または中耳腔換気用チューブを伴う急性中耳炎である、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記組成物は、フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を 0 . 1 w / v % から 1 . 0 w / v % の濃度で含む、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 12】

前記組成物は、フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を 0 . 1 w / v % から 0 . 5 w / v % の濃度で含む、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 13】

前記組成物は、フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を 0 . 3 w / v % から 0 . 4 w / v % の濃度で含む、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 14】

前記組成物は 5 . 0 から 7 . 5 の pH を有する、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 15】

前記組成物は 5 . 0 から 6 . 0 の pH を有する、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 16】

前記組成物は抗炎症剤をさらに含む、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 17】

急性外耳炎または中耳腔換気用チューブを伴う急性中耳炎を処置するための局所的耳用組成物であって、該組成物は、フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を含み、該組成物は、被験体の外耳道に注入されることを特徴とする、組成物。

【請求項 18】

前記組成物は、0 . 3 w / v % から 0 . 4 w / v % のフィナフロキサシン濃度および 5 . 0 から 6 . 0 の pH を有する、請求項 17 に記載の組成物。

【請求項 19】

前記組成物は 0 . 3 w / v % から 1 . 0 w / v % の濃度の塩化マグネシウムをさらに含む、請求項 18 に記載の組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

以下の説明を添付の図面の図と組み合わせて参照することによって、本発明およびその利点のより完全な理解が得られ得る。図面において、類似の参照番号は類似の特徴を示す。

例えば、本発明は以下の項目を提供する。

(項目 1)

フィナフロキサシンを含む医薬的に許容できる局所的組成物であって、該組成物は眼、耳または鼻の感染症の処置に好適である、組成物。

(項目 2)

フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を 0.1 w / v % から 1.0 w / v % の濃度で含む、項目 1 に記載の組成物。

(項目 3)

フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を 0.1 w / v % から 0.5 w / v % の濃度で含む、項目 1 に記載の組成物。

(項目 4)

フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を 0.3 w / v % から 0.4 w / v % の濃度で含む、項目 1 に記載の組成物。

(項目 5)

前記組成物は 5.0 から 7.5 の pH を有する、項目 1 に記載の組成物。

(項目 6)

前記組成物は 5.0 から 6.0 の pH を有する、項目 1 に記載の組成物。

(項目 7)

抗炎症剤をさらに含む、項目 1 に記載の組成物。

(項目 8)

眼、耳または鼻の感染症を処置するための方法であって、

フィナフロキサシンを含む組成物の医薬的に有効な量によって該感染症を処置するステップを含む、方法。

(項目 9)

前記感染症は鼻の感染症である、項目 8 に記載の方法。

(項目 10)

前記感染症は急性外耳炎または中耳腔換気用チューブを伴う急性中耳炎である、項目 8 に記載の方法。

(項目 11)

前記組成物は、フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を 0.1 w / v % から 1.0 w / v % の濃度で含む、項目 8 に記載の方法。

(項目 12)

前記組成物は、フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を 0.1 w / v % から 0.5 w / v % の濃度で含む、項目 8 に記載の方法。

(項目 13)

前記組成物は、フィナフロキサシンまたはその医薬的に許容できる塩を 0.3 w / v % から 0.4 w / v % の濃度で含む、項目 8 に記載の方法。

(項目 14)

前記組成物は 5.0 から 7.5 の pH を有する、項目 8 に記載の方法。

(項目 15)

前記組成物は 5.0 から 6.0 の pH を有する、項目 8 に記載の方法。

(項目 16)

前記組成物は抗炎症剤をさらに含む、項目 8 に記載の方法。

(項目 17)

急性外耳炎または中耳腔換気用チューブを伴う急性中耳炎を処置するための方法であって、該方法は、

フィナフロキサシンを含む局所的耳用組成物を被験体の外耳道に注入するステップを含む、方法。

(項目 18)

前記組成物は、0.3 w / v % から 0.4 w / v % のフィナフロキサシン濃度および 5.0 から 6.0 の pH を有する、項目 17 に記載の方法。

(項目 19)

前記組成物は 0.3 w / v % から 1.0 w / v % の濃度の塩化マグネシウムをさらに含む、項目 18 に記載の方法。